

## 国分寺市地域福祉計画実施計画における平成27年度の評価についての推進協議会の意見

### 1 実施計画（P6～12） 第2章 具体的施策（重点施策・テーマ）についての意見

番号	事業名	意見	市民，地域・団体でできること
	評価全体について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紙面上だけで評価することは難しい。</li> <li>●目標が大きすぎて，評価が難しい。</li> </ul>	
重点施策・ テーマ (1)	地域福祉を担う人材の育成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民生委員が核となればよいが，忙しい。</li> <li>●口コミでだれかを誘って参加できるシステムを。</li> <li>●団塊の世代の方，何をしたらよいのかわからない人が多い。家から外に出さないといけない。</li> <li>●どんな事業を立ち上げて，人材が集まらなければ意味がなく，どうやって人材を確保していくかが課題である。</li> <li>●若い人の地域参加を促したいが，第1回で実施した「団体紹介・参加委員自己紹介シート」の活用が必要。</li> </ul>	
重点施策・ テーマ (1)	(仮称) 地域福祉推進協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりには5年，10年と時間がかかるが，顔を合わせて意見交換できる場所として，協議会を継続して実施することがまちづくりの一步にもなる。</li> <li>●地域福祉推進協議会の目的自体がすでに見えにくくなっている。これだけ多くの人が集まっているので，もっとつながりをつくるのが大切である。</li> <li>●話し合いも大事であるが，「団体紹介・参加委員自己紹介シート」を活用し，“知り合う，つながる”となる内容を行うことが必要である。</li> <li>●関係する部署の職員が，この場にはいないのはもったいない。これがうまくできれば，市との顔の見える関係がつかれ，もっと団体も動ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この会議に出なければ，こんなにいろいろなことをやっているとは知らなかった。委員として出席する。</li> </ul>

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
重点施策・テーマ(1)	国分寺市職員地域参加促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員と地域をつなげる必要がある。</li> <li>●職員も市民である。</li> <li>●自分の住んでいる地域をもっと知ってほしい。顔と顔を合わせることが大切。</li> <li>●本来業務にプラスアルファでやっていくのは大変ではあるという印象を持つ。</li> <li>●市内在住に限らず市職員に少しでも関わってもらうことは大事であり、ぜひ続けてほしい。</li> <li>●地域に開けた団体でありたいし、職員が関わってくると心強い。</li> <li>●今までもイベントで職員の顔を見る機会が多かったので、実施が遅れているという評価に疑問がある。</li> <li>●やや取組が遅れているとの評価だが、職員の参加が増えているので、なぜこのような評価になったのか。</li> <li>●福祉保健部以外の職員の参加がないので、福祉保健部以外の職員も参加してほしい。</li> <li>●「地域のイベント情報を職員に情報提供するまでには至らなかった」という評価結果はすごく残念だ。</li> <li>●職員に「自分にとってプラスになる」と宣伝に力を入れるべき。</li> <li>●地域の活動に参加することは、職員も勉強になる。</li> <li>●地域のニーズをしっかりと把握して目標を持って参加する必要がある。</li> <li>●ただ参加するだけではなく、具体的に目指すべき方向性を認識していかないと曖昧になるので、目標設定が必要である。</li> <li>●地域の情報を伝えてほしい。ただ見に行くだけで終わるのでなく有効活用してほしい。</li> <li>●地域の情報提供のみだけではなく、実際に参加することが大事である。</li> <li>●自発的活動であるべきで、地域への参加を職員に強制するのは本末転倒である。(地域イベントの雰囲気が悪くなる)</li> <li>●市外に住んでいる職員が市内の小さなイベントに参加するのは、現実的でない。</li> <li>●親切が過ぎるとギクシャクする、入り込み過ぎないなどマナーが必要である。</li> <li>●職員が知らないと、情報は広がっていかない。</li> <li>●私服だと、参加していても市の職員がだれかわからない。</li> <li>●小さなイベントの情報が職員に入りにくいのではないのか。</li> <li>●19町の職員の割振りがわからないので、知りたいという意見が多数。</li> <li>●19町の割振りした職員名を市報に載せてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市職員が参加しやすい環境づくりをしていく。</li> <li>●19町に割り振りをした事実を知らなかった。知っていれば、事業主は情報提供したり、事業のアピールができる。</li> <li>●19町の割り振りについて、割り振りを提供してくれれば、地域から情報を提供できる。</li> </ul>

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
重点施策・テーマ (1)	国分寺市職員地域参加促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の実績内容を知りたい。</li> <li>●地域ごとのマップをつくって、地域のイベントを貼っていくとわかりやすい。</li> <li>●19町の割振りの職員が、何ができるのかを考えるプロジェクトを設けてはどうか。</li> <li>●青少年問題協議会や学校の取組も知ってほしい。</li> <li>●難しいのは情報の共有や周知徹底。</li> <li>●職員への地域情報の提供や情報の取得の仕組みづくりが必要である。</li> <li>●地域のイベントの周知はしているが、参加やお手伝いも来ていないのでは。</li> <li>●地域の情報を地域の市民対象には周知したが、職員に対しても周知が必要である。</li> <li>●社協は地域の情報を市の窓口にもまとめて持って行って、市職員に情報共有してもらうことが必要である。市も窓口をつくってほしい。</li> <li>●公民館、図書館は、目標どおりに進行していると評価できる。</li> </ul>	

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
重点施策・テーマ(2)	地域包括ケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域ケア会議で連携しており、深まってきている。</li> <li>●地域包括支援センターができて、相互のアクションが活発になった。</li> <li>●子どもの包括もつこうとしている。</li> <li>●各団体がバラバラで動くのではなく、一体的に動く必要がある。</li> <li>●高齢者だけではなく、障害者、子どもも地域包括ケアの推進を図っていかなければならない。</li> <li>●障害・高齢・子どもの支援を総合的にできる社会を目指す必要がある。</li> <li>●各課の縦割りを越えていくことが必要だ。</li> <li>●重層的なネットワークが必要。</li> <li>●横断的なものをまとめるネットワークの構築が必要である。(市だけではなく、NPO法人も含めて)。</li> <li>●短期間で推進することは無理。長期的に地域で体制を整えるべき。</li> <li>●地域の声が把握されていない。</li> <li>●高齢者分野で地域小ケア会議等の会議はたくさんあるが、児童、障害、他分野とつながっていない。</li> <li>●高齢者の相談を受けて他の家族の問題も見えてくる。複数の課題を抱えている家庭もある。横の連携を進め、支援体制を整えていく必要がある。</li> <li>●親子ひろばのネットワークを事業化してほしい。</li> <li>●子育て相談室のところは具体的に書いてあるが、健康推進課の記載が乏しく不十分なのは。</li> <li>●課ごとに評価を出している時点で築けていないのではないか。</li> <li>●他の立場からも評価してほしい。</li> <li>●障害福祉課は事業を羅列しているが、地区別に分野を分けるべき。</li> <li>●高齢者が地域で暮らすことを考えると、全部介護保険では無理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●団体が信用される必要がある。市との協働で進めることで、信用を得やすい。</li> <li>●団体同士がつながる(横のつながり)。</li> <li>●地域が主体的に動く。</li> <li>●課題提供、情報提供(市に対して、地域に対して)にかかわる人を増やす。意思を表示する。</li> <li>●声を上げなければ、市に伝わらない。声を上げていく。</li> <li>●産前・産後の子育てサポート。孤立してしまうことを防ぐ。計画に取り上げていくように働きかけていく。</li> <li>●DVシェルターなど国分寺市には24時間の窓口がない。例えば他市では駆け込み寺としてコンビニを活用して地域の110番を行っている。例えば地域福祉推進協議会のフェイスブックを立ち上げて各機関の情報共有を行うなどから始める。</li> <li>●民間の連絡会と行政の連携</li> </ul>

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
重点施策・テーマ (3)	福祉の総合的な相談窓口の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢分野では、この部分に力を入れているので期待したい。</li> <li>●相談者は問題の解決を求めているので、相談だけで終わらない窓口。</li> <li>●相談窓口のワンストップ化のため、庁舎の分散を早く解消することが必要。</li> <li>●職員の配置が難しいのでは。</li> <li>●具体的なものが見えてこない。課題があるのではないか。子ども家庭支援センターとか進んでいるのか。</li> <li>●障害分野は地区に分かれていない、子育ては3地区、高齢は6地区に分かれている。整理も必要ではないか。</li> <li>●総合相談窓口は、相談内容を振り分けてあげられるとよい。</li> <li>●地域の相談役が民生委員の役割なので、まず民生委員に相談してほしい。</li> <li>●福祉の総合窓口が一本化すれば、もっと情報が渡りやすくなる。</li> <li>●評価は「目標どおり進行している」となっているが、市民感覚は違う。</li> <li>●27年度は「検討」だけで終わっているが、目標どおりに行けるのか。</li> <li>●発達障害の窓口をつくってほしいが、総合窓口が機能するかがわからない。</li> <li>●相談には勇気がいるが、気楽に相談できるような窓口が必要である。</li> <li>●どこに視察に行ったかを聞きたい。</li> <li>●分野で分かれて、各課でいろいろなことをやっているのに、他の課のことはわからないから、もったいない。つなげられないことがある。せめて「どこの窓口で相談すればいいですよ」という、横のネットワークが欲しい。</li> </ul>	

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
重点施策・テーマ(4)	避難行動要支援者(災害時要援護者)への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民生委員プラス職員で防災訓練を行っているが、ペアとなる職員は皆近くに住んでいるわけではなく、子ども、家庭があるので、必ずしも最速で来るとも限らない。ただ、担当地域があって、どこにどんな人がいるか知っていることは必要だ。</li> <li>●職員の市内在住率が低い中で、災害の際には機能しないと思われる。もっと地域の力を活用すべき。</li> <li>●評価として、「整備した」だけでよいのか。</li> <li>●災害の際に機能するのかの検証がなされているのか。</li> <li>●拠点が必要としている外国人、障害者は、何かあったときに安心できる場所が必要。</li> <li>●災害時の外国人支援のため、国際協会も駅近くに拠点がほしい。</li> <li>●災害時に情報が入らないというリスクの解消が課題。</li> <li>●市や支援者にやってもらい過ぎている。</li> <li>●言われると支援をしてしまうが、やり過ぎてしまっているときがある。</li> <li>●行政が準備してやってきたことを、いきなり市民主導と言われても、すぐには切り替えられないので時間が必要。</li> <li>●支援をしようとしても個人情報保護の壁があり、支援できないことがある。</li> <li>●求める方がなかなか情報をオープンにしない場合がある。</li> <li>●当事者や家族の意見が反映されていない。</li> <li>●個人情報の壁がある。</li> <li>●民生委員の登録マニュアルの整備が必要。</li> <li>●確認だけでその後どうしているかわからない。実際の災害のときは確認だけでよいのか、どのように助けたらよいかわからない。</li> <li>●防災訓練などでも名簿の共有等には個人情報の壁があり難しい現状がある。</li> <li>●災害の際、乳幼児が避難できるスポットをつくってほしい。</li> <li>●3.11のときの情報発信が不足で、商店街の開・閉店が伝わっていない。</li> <li>●難病や精神疾患の方の薬の内容の情報把握が必要。</li> <li>●市民説明会を実施してほしい。</li> <li>●何があるかわからないので、プラカード等の準備が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法人としても、周辺地域用の災害備蓄の準備。</li> <li>●名簿による町会で安否確認を実施する(27名)。(自治会では民生委員とプラカードを貼る)</li> <li>●防災、防犯で顔を知った同士であれば力が出る。</li> <li>●市の担当者、警察、消防を招き講話をしてもらう。</li> </ul>
重点施策・テーマ(5)	生活困窮者への自立支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習支援をしている場所等の情報が少ない。</li> <li>●生活保護などの必要な方への支援を。</li> <li>●目標値に達していないが、社会福祉協議会が行うことで数値が伸びている。</li> <li>●場所貸しの依頼があったが、市の子ども以外の部署が許可しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容がわかれば情報発信ができる。</li> </ul>

## 国分寺市地域福祉計画実施計画における平成27年度の評価についての推進協議会の意見

### 2 実施計画（P13～40） 第3章 各事業等の紹介についての意見

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
5	子ども家庭支援センター地域ネットワーク事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワークの内容と整合性がとれていない。</li> </ul>	
7	認知症サポーター及びキャラバン・メイトの養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市職員に対してだけでなく、市民にも広く広める必要がある。</li> <li>●事業者の参加が必要。</li> <li>●今ある事業をどのように市民に情報提供するかが課題（市報だとどれだけの人が見てるのかわからない）であり、ツイッター等のSNSも活用しているだろうが、たくさんの人に知ってもらう必要がある。</li> <li>●もっと周知を行うことが必要。市報だけでなくその他の方法で周知が必要。小・中学校など世代間連携ができないか。</li> <li>●他市では講座を受けた後もいろいろ参加できるメニューがある。</li> <li>●認知症になっても暮らせる地域づくりが必要。</li> </ul>	
8～11	ボランティアや市民活動団体の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市で取組が難しいところをボランティアの手を借りていけばよい。</li> <li>●地域のボランティア活動が充実すれば、市がよくなる。</li> <li>●素人ができること、プロができることがある。なんでもボランティアがよいとは限らない。</li> <li>●児童館等、午前中空いている。場所があり、空いているのに使えない施設の積極的な活用が必要。</li> <li>●市の縦割りの弊害がある。空き家の活用や生きがいセンターの部屋貸しを。</li> </ul>	
12	地域コミュニティ活動の促進・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会の加入を増やさないといけない。</li> <li>●自治会は、高齢化で消滅しつつある。</li> <li>●雪かきが、できる、できない、しない地域が見える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会の加入率が下がっており、加入のメリットは感じにくい。各会がアピールして加入を促すべき。</li> <li>●お祭り、集団リサイクルのために皆が集まり、顔見知りができる。子どもも来る。</li> <li>●新しいマンションも自治会加入を必須とする。</li> <li>●自治会のない地域は民生委員を中心に地域をまとめる。</li> </ul>

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
14	提案型協働事業	●事業が多すぎる。整理ができるのでは。	
17	市民活動センター事業	●市民活動センターの先が見えてこない。あり方・方向性が見えない。もっと具体的にしてほしい。	
17~47	地域住民の交流促進	<p>●人目につくところに、目を引くもの（広報）をつくる必要がある。それを考えていくことが大切。SNSやそれ以外のこと。チラシや口こみもあると思う。</p> <p>●差別は自分以外の人を知らないから。自分以外を排除してしまうから。自分以外の別のひととふれあう場所をつくりたい。</p> <p>●ふらっと行ける、いつでもいられる居場所づくりが必要。</p> <p>●自治会加入率4割。若い人は入らない。高齢者だけではできない。自治会の集まる場所が必要である。公民館、地域センターが使えない。</p> <p>●空き家条例をつくって、ニーズにあわせて活用できるようにすることが必要。</p> <p>●子ども、大人、高齢者で切れている。</p> <p>●小さい拠点をたくさんつくって、すべての世代を集める（関われる）場所が必要。住民の反対は、知らないから反対される。何をしようとしても反対されるから少しずつやるしかない。</p> <p>●目の不自由な方と接する仕事をしている人とつながりをつくる場をつくろうとしている。健常者と隔てることなく、一緒に活動する場が必要。</p> <p>●複数の課で事業に取り組んでいるのはよいこと。</p> <p>●地域包括支援センターで認知症カフェを市内2箇所月2回開設しているが、もっと子どもとの交流ができればよい。</p>	<p>●空き家、空き店舗…居場所づくり。</p> <p>●施設の管理を任せてもらえると、すごくよい。行政や社協に協力を仰ぎたい。</p> <p>●地元の町会と連携している。（法人）</p> <p>●自らのスキルで地域支援。</p> <p>●地域に出てこれない親子をひろい上げるシステム</p> <p>●「近助」が重要。</p> <p>●迷い高齢者の情報を元に、地域の目を活かしたい。メールでの情報提供は重要。</p>
19	地域生きがい交流事業	●自治会に入っている入っていないに関係なく、住民の意識を調査して取り込む。	

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
27	親子ひろば事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>●場所を南口に移動したことによって、以前より体制が整っているのではないか（東部の拠点ができた）。</li> <li>●親子ひろばなどの拠点を設けて、母のフォローを連携して行うことができるようになった。</li> <li>●拡充できている。</li> <li>●虐待の防止にもつながる。</li> <li>●ひきこもらずに出てきてもらうことが大切。</li> <li>●ひかり児童館は、隣に公民館や子ども家庭支援センターがある。</li> <li>●いろいろな方がいろいろなニーズで利用している。</li> <li>●情報交換や各施設で手をつなぎ連携している。</li> <li>●市民、地域、学校で何ができるかが課題。</li> </ul>	
31	放課後子どもプランの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●もう少しうまく運用してほしい。地域との連携がうまくいっていない。PTAが地域となってしまっている。他市は私立も参加できるが国分寺市は公立のみで、情報提供もない。</li> <li>●規制が多すぎてうまくいっていない。事故が起きないように開催回数が限られており、子どもの居場所がない。</li> <li>●高齢者と子どもの交流がもっとあればよい。</li> <li>●保育園と老人ホームの併設施設がうまくいっている事例があるので、高齢者をもっと活用すればよい。</li> <li>●他市では高齢者交流室で子どもと高齢者の交流（工作など）がある。親は子どもがつくった工作を買っていく。</li> <li>●高齢者は待つことができるので子どもにはよいのでは。市が介入してコーディネートする。</li> </ul>	
48, 49	民生委員・児童委員の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民生・児童委員の情報をもっと周知した方がよい。</li> <li>●民生・児童委員の連携が必要。</li> <li>●民生・児童委員の取組ありがたい。</li> <li>●主任児童委員は、担当区域が広過ぎる。</li> <li>●民生・児童委員が高齢者だけでなく赤ちゃんの誕生にもお祝いをする取組を。</li> </ul>	

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
50～60	地域福祉活動団体等への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●寄り添う活動を自然と実施することが大事である。</li> <li>●イベント等に参加できる方よりも、家の中にもっている人の支援が課題。地域の方のふれあいが必要なのは、外に出てこない人を孤独にしてはいけない。しかし、この様なものに落とし込むのが難しい。</li> <li>●活動していることを知っても参加するのが、大きなハードル。勇気が必要。</li> <li>●事業のスピードが速すぎる。市民目線になじまない。もう少し熟成させる必要があるのでは。</li> <li>●地域の拠点、情報ステーション、市HPに19町の掲示板をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●難しいことを考えるよりも、日々の中できっかけは生まれる。（市民農園、お茶のみ）</li> <li>●神社の活動で、地域とのかかわりができる。</li> <li>●自治会の会長の協力を得る。</li> <li>●地域の中での声かけで、地域への参加ができる。きっかけづくりが大切。</li> </ul>
61, 67	保健福祉意識の高揚 福祉に関する講座等事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症ということを世間に公表しても大丈夫になった。</li> </ul>	
62	国際交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本語ができない子どもの就業、就学にはとても課題があるが、市は縦割りで、横のつながりがない。総合窓口がうまくつなげる役割を担ってほしい。</li> <li>●市内に住んでいる外国人を小学校に派遣し、地域に顔を知ってもらうことを目指す。</li> </ul>	
64	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常的に差別されることはよくある。実際、交流しないと、地域の人々の理解は難しい。聴覚障害者は見てもわからないので、理解を得られにくい。</li> </ul>	
66	子どもの権利に関する啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どものいじめが、国分寺ではないわけではない（少なくはなっている）。</li> <li>●小学校の中高学年にいじめについて話を（人権擁護委員）。</li> </ul>	
77	市報・ホームページによる福祉情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市報だけでは効果が低い。</li> <li>●市報がパターン化していてわかりづらく、広報の工夫が必要。コラムをつくるなど市民や民間の編集員がいればよい。</li> </ul>	

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
77～98	情報の提供・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもに関する情報の提供が少ない。</li> <li>●駅に情報ステーションがあればよい。</li> <li>●昔は近所づきあいがあって、情報が共有されていたが、今は薄くなっている。</li> <li>●チラシなどの情報発信力を生かすための言葉選びが必要。市民の方にわかりやすい言葉選び。</li> <li>●交流の場があるが、情報発信が少ない。新たに転入された方やネットワークのない方は情報量の格差がある。</li> <li>●情報難民である。</li> <li>●公民館、図書館を情報の発信基地にすれば、情報難民を救えるのでは。</li> <li>●コンビニなど生活の中で利用する場所を情報発信の場にしては。</li> <li>●近頃は子どもが泣いているだけで虐待の通報をされてしまう。子どもの情報がわかればなくなるのでは。</li> <li>●自治会の加入率の低下で、自治会の回覧版の周知効果が低下している。</li> </ul>	
104	地域ケア会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●担当課だけで進んでいる。</li> <li>●専門的な職員がない（運動指導士）。</li> <li>●地域資源を活用してほしい。</li> <li>●協力したいと思っているのに（ほかでかかわりがあるのに）活用してくれない。</li> </ul>	
108	難病等の相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たに認識してもらえたところがよかった。</li> <li>●高齢者と障害者の部分がオーバーラップ</li> </ul>	
117～131	福祉ニーズに対応する人材の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢のみ、障害、子どもはどうなっているのか。</li> </ul>	
141～143	子どもの権利条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>●啓発はどこに向けているのか。</li> <li>●イニシアティブをどこがとっているか見えない。</li> </ul>	
148～153	権利擁護の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市として、高齢者・障害者に対してどう取り組んでいくか考えていないといけないのでは。</li> </ul>	
175～184	防災・減災対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課がバラバラでそれぞれで取り組んでいるが、縦割りではなく、共通認識を持ってやってほしい。</li> </ul>	

番号	事業名	意見	市民、地域・団体でできること
178～ 184	防災意識の向上 災害に対する備え		●防災協力農地の周知
188	見守り協定事業		●高齢者の見守りを市報配布で確認。
全体		<ul style="list-style-type: none"> <li>●住んでる地域の単位で、それぞれ支援し合えたらすばらしい。</li> <li>●フレーム、箱の準備は行政で、管理、運営は団体でというのが理想。</li> <li>●事業内容が難しく、一般の人にはわかりにくい。出前講座で事業の説明をしてくれたらよい。</li> <li>●担当課のみの言葉しかない。「他課と協力して行っています」という言葉がない。</li> <li>●市民目線というのがとても大事。</li> <li>●一家庭を支援する。高齢者、障害者、子どもの支援、知り合いの助けがネットワークにつながる。一年でできるものではない。</li> <li>●もとまち地域会議，並木地域会議は、とても機能している。小・中学校とのやりとりはとてもできている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●空き家情報の提供をしている。</li> <li>●職場体験を受け入れる。</li> <li>●市が頑張り，地域も頑張り，双方向でやっていく。</li> <li>●市報の隅から隅まで読むこと。</li> <li>●知ったことを周りに知らせることが，自分にできること。</li> <li>●市民と市の乖離に気付き，歩み寄ることが大切。</li> </ul>